

文部科学省のサイエンスカフェの取組（概要）

文部科学省科学技術・学術政策局
人材政策課 課長補佐 石橋一郎

○文部科学省情報ひろばサイエンスカフェの概要（スライド 1）

○サイエンスカフェは共創に向けた「つながる場」（スライド 2）

- ・サイエンスカフェは 科学コミュニケーション の一形態
- ・上段は、講演会、アウトリーチ活動、広報が主であり、対話が行われる機会は少ない
- ・科学コミュニケーションの結果、相互に変化があるか（下段）。双方の考え方や視点について新たな発見があり、自らの考え（研究）の変化のきっかけとなり得るか
- ・最終的には サイエンスカフェで「共創」の下地となる対話を推進

○参加者は対話を求めているのか（スライド 3）

- ・講義（プレゼン）と質疑応答（①→②）に終始【壁 1】
- ・③の場でのすれ違い（対話でなく主張）【壁 2】
- ・参加者の目的が④でない可能性（いずれの壁も、参加者（講師、ファシリテーター、市民）が対話を目的としていないことに起因か）
- ・一同に会する物理的、時間的制約

○サイエンスカフェの価値観とファシリテーター（スライド 4）

- ・双方 同じ目線で対話 するための視線の移動（サイエンスレベルの高さ、社会との近さ）
- ・参加者のニーズとサイエンスカフェの価値観の 距離を縮める
- ・対話の結果、相互の視点への気付きがある（これが新たな発見である）ことは重要

○サイエンスカフェの風景（スライド 5）

- ・対話の場であることの確認、特に講師と事務局の打合せ時に 「何を持ち帰りたいのか」と問いかける
- ・同じ空間の共有 のための簡単なワークショップ、実験の演示等「参加できるもの」を準備していただくよう依頼
- ・対話の「見える化」のため、グラフィックレコーディングを活用
- ・国が行うサイエンスカフェとして、「一つのお手本」となっているか

共創に向けた 「つながる場」

～文部科学省におけるサイエンスカフェの取組～

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課

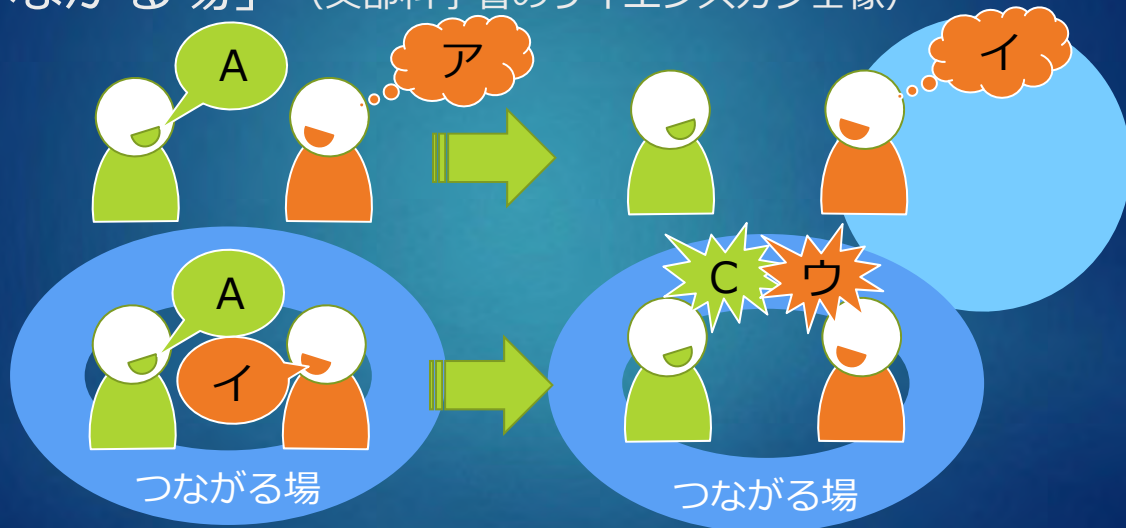
文部科学省情報ひろばサイエンスカフェの概要

- ▶ 共催 科学技術振興機構（JST）
- ▶ 日時 原則、隔月（奇数月）最終金曜日の19時～（日本学術会議サイエンスカフェと同じ日時）
- ▶ 会場 文部科学省情報ひろばラウンジ（定員約30名）
- ▶ 講師 研究者（教授、准教授、助教等立場は様々）
- ▶ ファシリテーター 原則、講師の推薦による
- ▶ 周知 文部科学省HP、文部科学省Facebook、科学技術週間HP、サイエンスポータル（JST）、JSTメーリングリスト
- ▶ 参加者に飲み物（コーヒー、紅茶）を提供
- ▶ 講師より話題提供のための研究紹介の後、対話の時間
- ▶ カフェの内容については、「ギジログ」として提供（当日同時並行で作成・掲示、サイエンスポータル（科学技術週間HP）、情報ひろば）



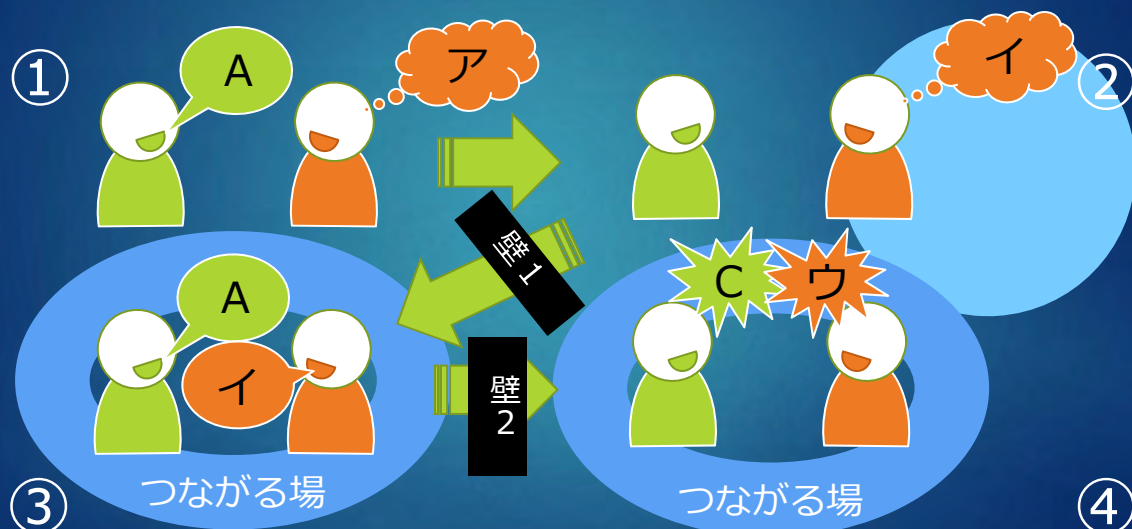
サイエンスカフェは共創に向けた「つながる場」 (文部科学省のサイエンスカフェ像)

2



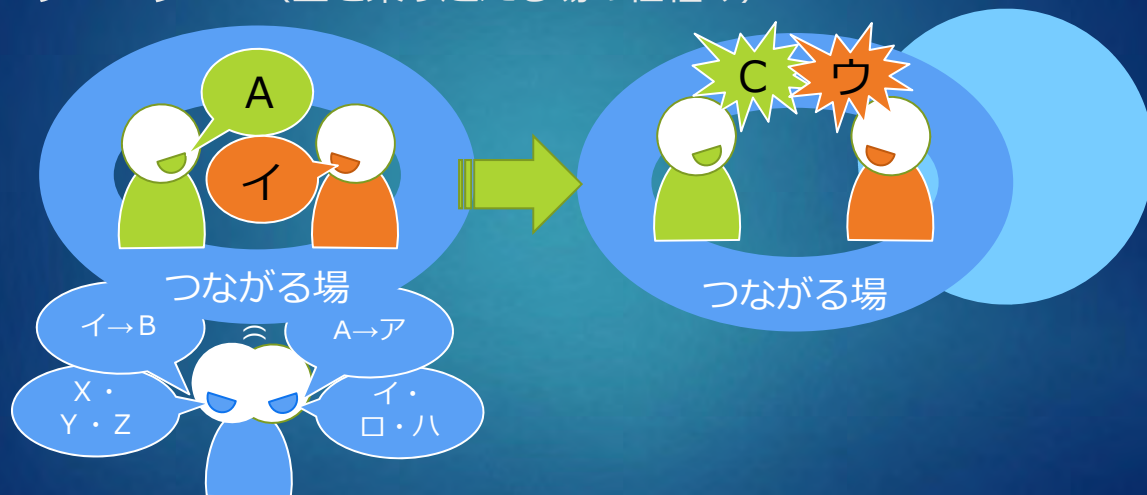
参加者は対話を求めているのか (実際に運営してみると)

3



サイエンスカフェの価値観とファシリテーター（壁を乗り越える場の仕組み）

4



サイエンスカフェの風景

5

